

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
国語表現Ⅱ(書簡文・挨拶文) Writing Japanese II		1年・2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	特になし	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
国語の表現力を高めたいと考えている人には「国語表現Ⅰ」(基礎知識)、「国語表現Ⅲ」(小論文)、「国語表現Ⅳ」(ビジネス文書)の受講が望まれる。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
さらに国語力を高めたいと考えている人には「コミュニケーションⅠ」(敬語表現)、「コミュニケーションⅡ」(プレゼンテーション)の受講が望まれる。				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
大室 精一	みかも館2階	月火水木の9時～16時(授業時間除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
①昔話の学習(あらすじをメモする→印象深いシーンをイラストで描く→昔話の特色を解説する。)				
②テキストの学習(第一章「手紙の基本」、第二章「文例集」、第三章「葉書の書き方」、第四章「一筆箋」を講義する。)				
③演習問題(毎時間「私の夢」「賛否両論」「恩師への手紙」等の別テーマで書く。)				
④漢字練習・国語常識(漢字は「読み書き」「難読語」等を扱い、国語常識では「慣用句」「ことわざ」等を扱う。)				
授業の目標				
①昔話の学習(昔話の理解が深まり、その特色を文章やイラストで表現する力を身に付けることができるようにする。)				
②テキストの学習(就職に役立つ「手紙」「葉書」「挨拶文」の基本を身に付けることができるようにする。)				
③演習問題(様々なテーマによる活動を通して、表現能力を高めることができるようにする。)				
④漢字練習・国語常識(常用漢字の力と国語常識を身に付けることができるようにする。)				
授業の方法				
この授業の方法は、以下の3項目となる。				
①講義が中心になるが、一部に演習形式(ミニスピーチ・ディスカッション等)を含む。				
②毎時間プリントによる学習であり、表面は「昔話・テキスト関連・国語常識」、裏面は「漢字練習」である。				
③プリントの最後に「本日の授業で考えたこと」を記入して学習内容のポイントを確認する。質問も同時に記入する。				
学習の成果(学習成果)				
この授業を履修すると、あなたは				
①昔話の理解が深まり、その昔話の印象深いシーンを、文章やイラストで表現する力を身に付けることができる。				
②職業人としての「手紙文」「葉書」「一筆箋」等の知識を深め、「電話」「敬語」等の基本を身に付けることができる。				
③様々なテーマによる表現活動の体験を通して、表現能力を高めることができる。				
④社会人として必要な常用漢字の力と、様々な国語常識を身に付けることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス(勉強の心構え・講義計画・プリント・課題・成績評価等について) プリント学習(漢字練習)			
第2回目	テキストⅠ「手紙文の組み立て」	演習→「私の夢」の短文	昔話の世界「ぶんぶく茶釜」	漢字・国語常識
第3回目	テキストⅠ「宛名・宛先の書き方」	演習→「私の夢」の検討	昔話の世界「三枚のお札」	漢字・国語常識
第4回目	テキストⅠ「時候のあいさつ」	演習→「賛否両論」の練習	昔話の世界「金太郎」	漢字・国語常識
第5回目	テキストⅠ「決まった言い回し」	演習→「賛否両論」の検討	昔話の世界「鼠の嫁入り」	漢字・国語常識
第6回目	テキストⅠ「敬語の用法」	演習→「最寄駅」からの道順	昔話の世界「ジャックと豆の木」	漢字・国語常識

第7回目	テキストⅠ「手紙のマナー」	演習→「最寄駅」の検討	昔話の世界「彦ーとんち話」	漢字・国語常識
第8回目	テキストⅡ「お祝いの手紙」	演習→「母への」手紙	昔話の世界「尻尾の釣り」	漢字・国語常識
第9回目	テキストⅡ「依頼・催促の手紙」	演習→「母への」手紙検討	昔話の世界「眠り姫」	漢字・国語常識
第10回目	テキストⅡ「お詫びの手紙」	演習→「恩師への」手紙	昔話の世界「こぶとり爺さん」	漢字・国語常識 課題「私の人生を変えた一冊の本」提出
第11回目	テキストⅢ「葉書の基本」	演習→「恩師への手紙」検討	昔話の世界「鳥飲み爺さん」	漢字・国語常識
第12回目	テキストⅢ「季節の挨拶」	演習→「未来の自分」を描く	昔話の世界「クラゲのお使い」	漢字・国語常識
第13回目	テキストⅢ「通知葉書」	演習→「未来の自分」の検討	昔話の世界「マッチ売りの少女」	漢字・国語常識
第14回目	テキストⅣ「一筆箋」	昔話の世界「かさ地藏」	漢字・国語常識	確認テスト
第15回目	テキストⅣ「カード」	昔話の世界「長靴をはいた猫」	漢字・国語常識	全体のまとめ
成績評価の方法と基準				
評価の領域		割合	評価の基準	
授業参加態度		45%	毎時間プリントを配布し、授業後に回収して、授業への参加態度を記入状況により評価する。45点満点：毎時間のプリントを3点満点で評価(すべて記入なら優→3点、良→2点、可→1点)×15=15～45点	
レポート		15%	「私の人生を変えた一冊の本」の課題の、表現力と自己分析の深さを記入状況により評価する。15点満点：課題の提出点が10点、レポートの完成度により1～5点を加える。	
調査報告書				
小テスト				
試験		40%	大テーマによる論述問題(2問)で10点、授業全体から短答式の設問(15問)で30点の試験。40点満点：論述問題は記入してあれば5点、完成度により1～5点を加える。短答式は1問2点となる。	
発表内容(態度含む)				
その他				
教科書と参考図書				
教科書：『気持ち伝わる手紙・はがきの書き方全集』(中川越著・PHPビジュアル実用BOOKS・1200円) 参考書・参考資料：授業担当者より適宜紹介するが購入の必要はない。				
履修上の留意点・ルール				
毎回の授業でプリントを配布し回収して添削・評価を行うので、欠席した場合には「オフィスアワー」を利用して補講を受ける。				